



安全データシート

Phenylethanol Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2025/10/02 改訂日: 2025/11/12 バージョン: 1.1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Phenylethanol Agar
製品タイプ : Food Safety -- [Food Safety]
製品コード : NCM0153
Part Number(s) : NCM0153|400000844|700003408|700003410

会社情報

仕入先

Neogen Corporation
48912
United States of America Michigan Lansing 620 Lesher Place
T 800.234.5333
sds@neogen.com - <https://www.neogen.com/>

輸入業者

ネオジェンジャパン株式会社
220-0012
神奈川県 横浜市西区 みなとみらい 3-3-3 横浜コネクトスクエア
12階
T 045-211-4615

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 : 24 hours:
Medical: 1-800-498-5743 (U.S. and Canada) or 1-651-523-0318 (international)
Spill/CHEMTREC: 1-800-424-9300 (U.S. and Canada) or 1-703-527-3887 (international)

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性		
爆発物		分類できない
可燃性ガス		区分に該当しない
エアゾール		分類できない
酸化性ガス		区分に該当しない
高压ガス		区分に該当しない
引火性液体		区分に該当しない
可燃性固体		分類できない
自己反応性化学品		分類できない
自然発火性液体		区分に該当しない
自然発火性固体		分類できない
自己発熱性化学品		分類できない
水反応可燃性化学品		分類できない
酸化性液体		区分に該当しない
酸化性固体		分類できない
有機過氧化物		分類できない
金属腐食性化学品		分類できない
鈍性化爆発物		分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	区分に該当しない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない

安全データシート

Phenylethanol Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	分類できない
	水生環境有害性 長期 (慢性)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

: 警告

危険有害性 (GHS JP)

: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い (H361)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 使用前に取扱説明書を入手すること。 (P201)

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 (P202)

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 (P280)

応急措置

: ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
(P308+P313)

保管

: 施錠して保管すること。 (P405)

廃棄

: 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。
(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

: 混合物

名前	濃度 (%)	官報公示整理番号		CAS 番号
		化審法番号	安衛法番号	
2-Phenylethanol	≥ 5 - < 10	(3)-1032	既存化学物質	60-12-8

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般

: ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。

吸入した場合

: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

: 皮膚は多量の水で洗浄する。

眼に入った場合

: 予防措置として眼を水ですすぐ。

飲み込んだ場合

: 気分が悪いときは医師に連絡すること。

安全データシート

Phenylethanol Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

応急措置をする者の保護 : First-aiders should pay attention to their own protection and use the recommended personal protective equipment (see section 8).

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 吸入した場合 : 通常の条件下では特に無し。
本製品から発生しうる粉じんは、吸い込み過ぎると呼吸器の炎症を引き起こす場合がある。

症状/損傷 皮膚に付着した場合 : 通常の条件下では特に無し。
粉じんは皮膚のひだまたは密着した衣服に接触することで刺激を起こすことがある。

症状/損傷 眼に入った場合 : 通常の条件下では特に無し。
本製品の粉じんは、目の炎症を引き起こす場合がある。

症状/損傷 飲み込んだ場合 : 通常の条件下では特に無し。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療 : 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤

使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。

火災危険性 : 火災の危険は一切ない。

爆発の危険 : 直接に爆発する危険は全くない。

火災時の危険有害性分解生成物 : 有毒な煙を放出する可能性がある。

消火方法 : 安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。
呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。

消火時の保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
自給式呼吸器。
完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 : 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

非緊急対応者

保護具 : 推奨される個人用保護具を着用する。

応急処置 : 漏出エリアを換気する。

緊急対応者

保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
詳細については、第 8 項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。

応急処置 : 不要な職員を退避させる。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。

安全データシート

Phenylethanol Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法 : 清潔なシヨベルを使用して、ドライコンテナに物質を入れ、圧縮せずに覆います。
- 浄化方法 : 製品は機械的に回収する。
本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
- その他の情報 : 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : データなし
- 安全取扱注意事項 : 作業所の十分な換気を確保する。
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
個人用保護具を着用する。
- 接触回避 : データなし
- 衛生対策 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管

- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
- 安全な容器包装材料 : データなし
- 技術的対策 : 涼しくて、よく換気された場所で、熱から離して保存する。
- 容器包装材料 : 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。
- 保管温度 : 2 - 8 °C

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。
- 保護具
- 個人用保護具 : 推奨される個人用保護具を着用する。
- 呼吸用保護具 : [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。
- 手の保護具 : 保護用手袋
- 眼の保護具 : 安全メガネ
- 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する。
- 環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 固体
- 外観 : 粉末
- 色 : ベージュ色
- 臭い : 特異臭
- pH : 7.1 - 7.5
- 融点 : データなし
- 凝固点 : データなし
- 沸点 : データなし
- 引火点 : データなし
- 自然発火点 : データなし

安全データシート

Phenylethanol Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: 水に可溶。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第7項参照）。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 分類できない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 区分に該当しない (粉じん、ミスト)

Phenylethanol Agar	
未知の急性毒性 (GHS JP)	混合物の 58.82%は未知の急性毒性(経口)の成分で構成されている 混合物の 94.12%は未知の急性毒性(経皮)の成分で構成されている 混合物の 94.12%は未知の急性毒性(吸入 (粉じん/ミスト))の成分で構成されている
2-Phenylethanol (60-12-8)	
急性毒性 (経口)	ラット LD50 値のデータとして、1800、1500、1800、2500、1700 mg/kg (以上 JECFA (2003))、2509 mg/kg (PATTY (5th, 2001)) の6件が報告され、うち4件が区分4に該当することから、区分4とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギ LD50 値 : 805 mg/kg bw (PATTY (5th, 2001)) に基づき区分3とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	ラット LC50 値は>1.38 mg/L/4h (IUCLID (2000)) との報告があるが、区分を特定できないので「分類できない」とした。なお、"aerosol"にばく露との記載 (IUCLID (2000)) により、ミスト/粉塵の区分基準値を適用した。

安全データシート

Phenylethanol Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

2-Phenylethanol (60-12-8)	
LD50 経口 ラット	1603 mg/kg BW (Equivalent or similar to OECD 401, Rat, Male / female, Experimental value, Oral, 14 day(s))
LD50 経口	1500 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	2535 mg/kg BW (Equivalent or similar to OECD 402, 24 h, Rabbit, Male / female, Experimental value, Dermal, 14 day(s))
LD50 経皮	805 mg/kg
LC50 吸入 - ラット	> 4.63 mg/l (4 h, Rat, Male / female, Experimental value, Inhalation (aerosol), 14 day(s))
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	> 1.38 mg/l Source: NITE

皮膚腐食性 / 刺激性 : 分類できない

Phenylethanol Agar	
pH	7.1 – 7.5

2-Phenylethanol (60-12-8)	
皮膚腐食性 / 刺激性	ウサギの皮膚に試験物質原液 0.5 mL を 4 時間適用した試験 (OECD TG404) を 2 回繰り返した結果、一次刺激性指数 (PII) は 2.22 および 0.92 であった (ECETOC TR66 (1995)) こと、およびヒト被験者 20 人に試験物質原液を 24 時間適用し刺激性なし (not irritating) との結果 (IUCLID (2000)) に基づき、区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 : 分類できない

Phenylethanol Agar	
pH	7.1 – 7.5

2-Phenylethanol (60-12-8)	
眼に対する重篤な損傷性 / 刺激性	ウサギの眼に試験物質原液 0.005 mL または 5-15% の propylene glycol 溶液 0.5 mL を適用し、いずれも重度の角膜刺激と虹彩炎 (severe corneal irritation and iritis) の結果 (PATTY (5th, 2001)) に基づき区分 2 とした。なお、ヒトの眼に 0.75 及び 0.6% 水溶液の適用により刺激性 (PATTY (5th, 2001)) が報告されている。

呼吸器感作性 : 分類できない

2-Phenylethanol (60-12-8)	
呼吸器感作性	データなし。

皮膚感作性 : 分類できない

2-Phenylethanol (60-12-8)	
皮膚感作性	データ不足。なお、モルモットを用いた皮膚感作性試験の結果として、Optimization test で感作性あり、Open epicutaneous test では感作性なしと報告され (IUCLID (2000))、相反する結果であり、また、いずれも OECD で承認された試験法ではない。一方、ヒトでは、25 人の被験者による皮膚感作性試験で当該物質は陽性反応を示さなかった (PATTY (5th, 2001)) と報告されている一方、種一の皮膚症状を有する患者で感作性を示す局所反応が認められた (PATTY (5th, 2001)) との報告もある。

生殖細胞変異原性 : 分類できない

安全データシート

Phenylethanol Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

2-Phenylethanol (60-12-8)	
生殖細胞変異原性	In vivo 試験データが無いので分類できない。なお、in vitro 試験では、エームス試験で陰性結果 (JECFA (2003)) が報告されている。
発がん性	: 分類できない
2-Phenylethanol (60-12-8)	
発がん性	データなし。
生殖毒性	: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
2-Phenylethanol (60-12-8)	
生殖毒性	妊娠ラットの器官形成期に経口投与した試験において、母動物の一般毒性について記述はないが、仔に対して、眼の変化、神経管欠損、水腎、四肢欠損を主とする奇形発生率の用量依存的な増加が報告されている (JECFA (2003))。また、妊娠ラットの器官形成期に経皮投与した試験においては、高用量群では死亡を含む体重増加抑制など母動物の一般毒性の発現とともに、吸収、胚損失、同腹仔数の低下、内臓と骨格の広範囲の変化に見られる胚・胎児毒性が現れ、形態学的変化は母体毒性の二次的影響の発生範囲を超えるものであると考えられた (JECFA (2003)) との記述があり、区分 2 とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 分類できない
2-Phenylethanol (60-12-8)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットの急性経口毒性試験 (LD50 値は 650-1430 mg/kg) において、肝臓および腎臓の変性が観察され、肝臓では、充血および軽度の脂肪変化、一方、腎臓では、髄質で尿細管壊死、皮質で尿細管細胞の混濁腫脹と円柱形成が認められた (IUCLID (2000))。LD50 値からガイダンス区分 2 に相当する用量での所見であることから、区分 2 (肝臓、腎臓) とした。また、マウスの急性経口試験では、1~2 mg/kg の用量で 1~5 分以内にほとんどの動物に麻酔が生じた (IUCLID (2000)) ことから区分 3 (麻酔作用) とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 分類できない
2-Phenylethanol (60-12-8)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットに 51 mg/kg bw/day を 4 ヶ月間反復経口投与により、コリンエステラーゼと ALT 活性の増加、血清蛋白量の減少などが報告され (JECFA (2003))、また、ラットの 30 日間反復経口投与試験の所見では、200 mg/kg bw/day (90 日補正 : 66.7mg/kg bw/day) で内臓障害、ヘモグロビン量および白血球数の減少などの記載がある (IUCLID (2000))。しかし、これらの試験はいずれも病理組織学的影響に言及されず、結果の詳細も不明なためデータ不足である。また、ラットに 13 週間経皮投与した試験において、2040 mg/kg/day 群の雄でヘモグロビン濃度および白血球数の低下が観察されたが、投与に関連する病理組織学的な変化はなく、その他に悪影響も認められていない (PATTY (5th, 2001)) ので、経皮投与では区分外相当となるが、特定標的臓器毒性 (反復暴露) の分類としては「分類できない」とした。
NOAEL (経皮、ラット/ウサギ、90 日)	510 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 411 (Subchronic Dermal Toxicity: 90-Day Study)
誤えん有害性	: 分類できない
2-Phenylethanol (60-12-8)	
誤えん有害性	データなし。

安全データシート

Phenylethanol Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

2-Phenylethanol (60-12-8)	
動粘性率	14.1 mm ² /s (20 °C, OECD 114: Viscosity of Liquids)

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般	: 本物質は水生生物に対して有害とは考慮されず、また、環境に対しても長期的な有害な影響を及ぼさない。
水生環境有害性 短期 (急性)	: 分類できない
水生環境有害性 長期 (慢性)	: 分類できない

2-Phenylethanol (60-12-8)	
水生環境有害性 短期 (急性)	甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC50 = 287 mg/L (IUCLID, 2000) から区分外とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	急性毒性区分外であり、難水溶性ではない (水溶解度 : 22200 mg/L (PHYSPROP Database, 2011)) ことから区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	215 – 464 mg/l (DIN 38412: German standard methods for the examination of water, waste water and sludge, 96 h, Leuciscus idus, Static system, Fresh water, Experimental value, Nominal concentration)
EC50 - 甲殻類 [1]	287.17 mg/l (EU Method C.2, 48 h, Daphnia magna, Static system, Fresh water, Experimental value, Locomotor effect)
EC50 72h - 藻類 [1]	490 mg/l Source: IUCLID
ErC50 藻類	1300 mg/l (DIN 38412: German standard methods for the examination of water, waste water and sludge, 72 h, Desmodesmus subspicatus, Static system, Fresh water, Experimental value, Nominal concentration)
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	1.3 (Experimental value, OECD 117: Partition Coefficient (n-octanol/water), HPLC method, 20 ° C)
有機炭素吸着係数 (Log Koc)	1.5 (log Koc, OECD 121: Estimation of the Adsorption Coefficient (Koc) on Soil and on Sewage Sludge using High Performance Liquid Chromatography (HPLC), Experimental value)

残留性・分解性

Phenylethanol Agar	
残留性・分解性	急速分解性でない
2-Phenylethanol (60-12-8)	
残留性・分解性	Biodegradable in the soil, Readily biodegradable in water.
生化学的酸素要求量(BOD)	1.45 g O ₂ /g substance
化学的酸素要求量(COD)	2.5 g O ₂ /g substance
ThOD	2.6 g O ₂ /g substance

生体蓄積性

Phenylethanol Agar	
生体蓄積性	データなし

安全データシート

Phenylethanol Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

2-Phenylethanol (60-12-8)	
生体蓄積性	Low potential for bioaccumulation (Log Kow < 4)。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	1.3 (Experimental value, OECD 117: Partition Coefficient (n-octanol/water), HPLC method, 20 ° C)
有機炭素吸着係数 (Log Koc)	1.5 (log Koc, OECD 121: Estimation of the Adsorption Coefficient (Koc) on Soil and on Sewage Sludge using High Performance Liquid Chromatography (HPLC), Experimental value)

土壌中の移動性

Phenylethanol Agar	
土壌中の移動性	データなし
2-Phenylethanol (60-12-8)	
表面張力	59.7 mN/m (20 °C, 1 g/l, OECD 115: Surface Tension of Aqueous Solutions)
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	1.3 (Experimental value, OECD 117: Partition Coefficient (n-octanol/water), HPLC method, 20 ° C)
有機炭素吸着係数 (Log Koc)	1.5 (log Koc, OECD 121: Estimation of the Adsorption Coefficient (Koc) on Soil and on Sewage Sludge using High Performance Liquid Chromatography (HPLC), Experimental value)
生態系 - 土壌	Highly mobile in soil。

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分	: 固体廃棄物については適用法令を遵守する。 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
廃棄方法	: 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物/容器を廃棄する。
地域の廃棄規則	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
推奨下水処理	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
追加情報	: 空の容器を再利用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制

UN RTDGに準ずる

国連勧告 (UN RTDG)	
国連番号	
輸送規則の定義上危険物に該当しない。	
国連正式品名	規制されていない

安全データシート

Phenylethanol Agar

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

国連勧告 (UN RTDG)	
輸送危険物分類	規制されていない
容器等級	規制されていない
環境有害性	規制されていない

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

国内規制

その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法 : 【改正後 令和 8 年 4 月 1 日以降】
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 0 条別表第 2）
【改正後 令和 8 年 4 月 1 日以降】
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条の 2 第 1 項、施行令第 1 8 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 4 条の 2 別表第 2）
2-フェニルエタノール-1-オール（別表の番号：1674）

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしてはいるが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。